

第58回国連婦人の地位委員会
一般討論ステートメント(和文仮訳)

議長,

私は、日本政府を代表して、この重要な会議の要職に就かれたカバクチュラン議長及びビューロー・メンバーに心から祝意を表します。

議長,

本年は、来年2015年が北京会議から20年、そして第1回世界女性会議以来40年を迎える年となることを視野に、各国がこれまでの取組みを振り返り、それを踏まえた貢献を如何に世界と共有するかを考えていく1年とすべきと考えます。

現在安倍内閣では成長戦略の柱の一つとして「女性が輝く社会」づくりに取り組んでいます。

日本は「女性が輝く社会」づくりを世界にも広げていくことに貢献したいと考えています。安倍総理が昨年の国連総会の一般討論演説で述べたとおり、日本は、途上国支援についても女性の活躍と能力強化に資するような支援を強化し、2013年以降3年間で30億ドルを超すODAを実施いたします。

議長,

このような節目の年ともいえる2015年は奇しくも貧困の撲滅に向けたミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限でもあります。

ポスト2015年開発アジェンダにおいては、人間の安全保障の視点に立ち、すべての人が開発の成果を共有する衡平で包摂的な成長が必要です。その視点から、日本は

ジェンダー平等および女性のエンパワーメントを重視しています。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ, UHCの推進も重要です。個別疾病中心から, 人間個人を中心に捉える発想に立って, UHCを推進し, 衡平性を確保し, 多様化する保健ニーズに対応することを目指すべきであり, 日本の知見を総動員して世界の健康課題の解決に貢献したいと考えます。

議長,

3年前の今日, 日本では東日本大震災が発生し, 約1万8千人もの尊い命が奪われました。震災により, 日本は多くのことを学びました。東日本大震災において, 避難所に授乳や着替えをするための場所がない等, 女性が避難生活に困難をきたすことがありました。背景には, 防災, 災害救援, 復旧・復興のあらゆる段階での意思決定に女性がほとんど参画しておらず, 男女のニーズの違いを踏まえた対策が不十分だったという問題がありました。この経験から, 日本は平常時から, 男女共同参画の視点からの災害対応について, 関係者が理解しておくことが重要だと学んだのです。

自然災害の発生は防げないが, 被害を減らすことはできる。日本は災害に負けない社会を, ジェンダーにも配慮して作ることの重要性を訴え, そして防災技術, システムを世界と共有するため, 2015年3月に被災地である仙台で第3回国連防災世界会議をホストします。そして, 防災・復興におけるジェンダーの視点や女性の役割の重要性について国際社会が認識を共有するため, この第58回CSWにて, 「自然災害とジェンダー」決議を再度提出したいと思います。

ご静聴ありがとうございました。